

これだけは知っておきたい

広東住血線虫 Q & A

Q1. 広東住血線虫ってどんな寄生虫？

A 成虫は、大きさ 20～34mmで（図1）ドブネズミやクマネズミの肺動脈に寄生してそこで虫卵を産みます。孵化した幼虫（1期幼虫）は気管 食道 胃 腸を経て糞と一緒に外へ出ます。



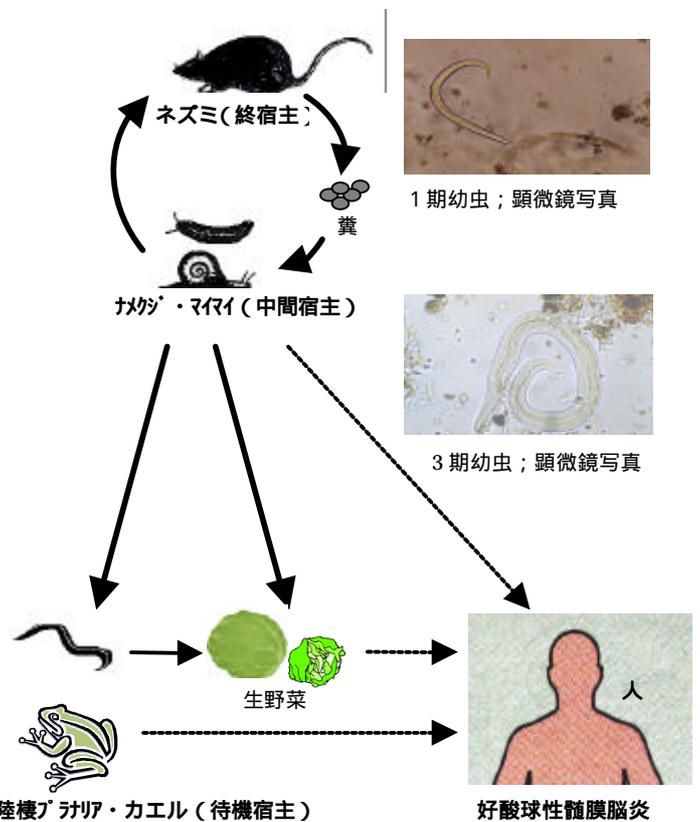
図1. ネズミの肺動脈から抽出した広東住血線虫・成虫
(左, 右)

Q2. ネズミの糞便中に出てきた幼虫はどうなるの？

A そのままだと死んでしまいますが、ナメクジやマイマイと接触すると、1期幼虫は体内に侵入し感染力を持つ3期幼虫にまで発育します。ネズミが、このマイマイやナメクジを食べると、3期幼虫はネズミの体内で成虫になり肺動脈に寄生します。

成虫が寄生するネズミは終宿主、幼虫が成長・発育する軟体動物は中間宿主と呼んでいます。また、中間宿主を捕食するカエルや陸棲プラナリアを待機宿主といいます。

広東住血線虫のライフサイクル



Q3. 人へはどうやって感染するの？

A 人への感染はマイマイやナメクジを生で食べたりあるいは素手で触れたりして感染した例があります。最近ではナメクジやマイマイによって汚染された生野菜を食べて感染した例も報告されています。

Q4 . 人が感染したらどんな症状が出るの？

A 人の体内に侵入した場合、幼虫は脊髄や脳に移動します。ここでは白血球の一種である好酸球の著しい増加をとともなう髄膜炎および脳炎を起こします。そのため激しい頭痛、発熱、顔面麻痺、四肢麻痺、昏睡などの髄膜炎症状が出現します。重症度は感染した幼虫の数に左右されます。潜伏期は1～2週間といわれています。



Q5 . どこに分布しているの？

A 広東住血線虫は、台湾、タイ、インドネシアなどの東南アジアや太平洋諸島に分布しています。わが国では沖縄県に比較的多くみられますが、本土の港湾などのネズミからもこの寄生虫が検出されたことが報告されています。

Q9 . マイマイやナメクジはどんなところにいるの？

A 主に畑周辺に放置されたビニールシートやダンボールの下などで多く観察されます。

Q6 . これまでどれくらいの感染例があるの？

A わが国では1970年に沖縄県ではじめて報告されて以来これまでに52症例が報告されていますが、そのうち35例(67%)は本県が感染地と推定されています。

Q10 . 沖縄で広東住血線虫が検出されたマイマイやナメクジの種類は？

A 2001～2003年の調査で採取された軟体動物は、陸生貝類が6種(アフリカマイマイ、シュリマイマイ、オキナワウスカワマイマイ、パンダナマイマイ、オキナワヤマタニシ、ヒラコウラベッコウガイ)、淡水産貝類が1種(リンゴガイ)、ナメクジ類が4種(アシヒダナメクジ、チャコウラナメクジ、ナメクジ、ヤマナメクジ)、陸棲プラナリア2種(ワタリコウガイビル、ニューギニアヤリガタリクウズムシ)の合計14種でした。

Q7 . 死亡例は？

A 2000年6月に沖縄で7歳の女の子が死亡した例が1例あります。

広東住血線虫が検出されたのはアフリカマイマイ、ヒラコウラベッコウガイ、アシヒダナメクジ、チャコウラナメクジ、ニューギニアヤリガタリクウズムシの5種でした。

Q8 . 有効な治療薬は？

A 特效薬はまだありませんが、対症療法により症状を緩和することは可能です。人は広東住血線虫の固有宿主ではないので、虫体は脳内で最終的には死滅します。

2001～2003年の調査で採取された主な軟体動物



名前：アフリカマイマイ
分布：本島全域、宮古島、石垣島
感染率：10.4%



名前：ヒラコウラベッコウガイ
分布：本島北部、石垣島
感染率：33.5%



名前：アシヒダナメクジ
分布：本島全域、宮古島、石垣島
感染率：7.5%



名前：チャコウラナメクジ
分布：本島中部
感染率：1.8%



名前：ナメクジ
分布：本島全域、宮古島、石垣島
感染率：0%

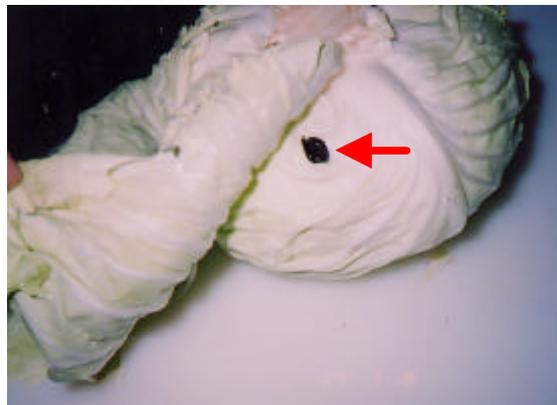


名前：ニューギニアヤリガタリクウズムシ
分布：本島全域、宮古島、石垣島
感染率：15.4%

野菜への付着が確認された1例

畑で収穫した直後のキャベツの葉を4～5枚むいたところニューギニアヤリガタリクウムシが確認されました（写真矢印）。

マイマイやナメクジを捕食するこの軟体動物はキャベツに害を与えることはなく、ねぐらにしているようです。気がつかずにサイザーなどでスライスされることでキャベツが虫体に汚染される可能性も考えられます。



予防法のポイント

1. 民間療法としてナメクジ等を食べないこと。
2. 誤って、マイマイを口に入れたり、触れた手をなめてしまった場合は、直ちに水で口を十分にすすぐこと。
3. マイマイやナメクジは素手で触らないこと。
4. 直接手で触れたりした場合は、流水、石鹼でよく洗うこと。
5. 野菜や果物を生で食べる場合は流水で十分に洗うこと。

問い合わせ先

おきなわけんえいせいかんきょうけんきゅうしょ びせいぶつしつ
沖縄県衛生環境研究所 微生物室

電話 098 - 945 - 0785

FAX 098 - 945 - 9366